



KONICA MINOLTA

冬の星座解説

S-402(15分31秒)

コニカミノルタプラネタリウム株式会社

冬の星座案内

ブルー

M 級麗な音楽

N A

木枯らしが舞う冬、太陽の輝きもどこか弱く、大地は眠りにつく季節。

太陽が沈むと、西の空には夕焼けが残ります。

日の入りの時間が早く、夏ですとまだ外が明るい晩の時刻でも、冬ではもう、星が瞬き始めます。

さあ、それでは、太陽を見送つて、冬の星空を見てゆくことにいたしましょう。

(音楽 盛り上がる)

(日の入り)

(満天の星空)

(音楽 句切りよく終わる)

M 冬のキラキラした、澄みきつた音楽

方位灯

太陽が沈んで一時間もすると、一番星から順に姿をあらわします。

冬は明るい星が多いので、星の登場を待つのにも、楽しい季節です。

太陽系の星、惑星たちを除いて、まず目につくのはこの星でしょう。

一等星の「シリウス」です。

「シリウス」は星座を作る星たち「恒星」の中で、一番明るく見ることができる星です。

ですから、冬の星空を見上げて、まず、目に飛び込んでくるのは、この「シリウス」です。

この星は「おおいぬ座」という星座の星にあたります。

○ おおいぬ座

P シリウス

○ こいぬ座

P プロキオン

「こいぬ座」です。

おおいぬ座のそばには小さな犬が・・・。

こいぬ座にも明るい星がみられます。

これは「プロキオン」という一等星。

「プロキオン」とは「犬の先駆け」という意味があります。

それは大犬の「シリウス」より、ほんの少し早く、東の地平線から昇つてくるのでそういうわれます。

二つの星座の隣には、大男の狩人が、星座になつています。

ここに明るい星が一つ。

P ベテルギウス

P リゲル

赤い色をしたこの星は、一等星の「ベテルギウス」。

そして、ここに見える青白い星も一等星で、「リゲル」という星です。

この二つの一等星をはさんで、三つの星が、規則正しく並んでいます。

その辺りの星々を結ぶと、こんな形。

○ オリオン線

日本のある地方では、これを楽器の鼓に例えて、「つづみ星」と呼びました。

可愛い太鼓、「鼓」を横から見た形と、そつくりです。

西洋ではここに、ギリシャ神話に出てくる、狩人オリオーンの姿をあてはめました。
「オリオン座」です。

○ オリオン座

三つ並んだ二等星が、ちょうどオリオンの腰のベルトの所に当たはります。

そこでこの三つの星を「オリオンの三ツ星」と、呼んでいます。

「オリオン座」のオリオンは、狙った獲物は必ずしとめる、という狩の名人。しかし、自分の腕前を見せびらかすため、必要なものまで捕まえてしまうので、神はオリオンを天に上げ、もう、狩が出来ないようにしました。

しかし、星座になつたオリオンの姿を見ると、まだ、何かに向かつて、戦つているように、見えませんか？

そう、オリオンが見つめるその先には、大きな牛がいます。

「おうし座」です。

○ おうし座

この牛はオリオンを天に上げた、大神ゼウスが、変身した姿だといわれています。

ギリシャ神話では、オリオンは大神ゼウスの手によつて、天に上げられ星になつた、というところで、物語は終わりますが、こうして星空の星座の絵を見ていると、まるでオリオンが「よくも俺を星にしてくれたな！」と、怒つて、大神ゼウスへ戦いを挑んでいるようにも、見えます。

さて、「おうし座」の右目を見ると、赤い明るい星が見えています。

これは一等星の「アルデバラン」。

「ブレアデスにつづくもの」という意味があります。

ブレアデスとは、「ブレアデス星団」のこと。

また、星が一ヶ所に集まつたものを「星団」と呼んでいます。

そこで辺りの星を眺めてみると・・・、ありました。

ここに星がごちやごちやと集まっています。

これが「ブレアデス星団」。

日本では「すばる」と呼ばれています。

「アルデバラン」はこのブレアデスの星たちの後を追うように、時間が進むと西の地平線に傾き、沈んでゆきます。

P アルデバラン

すばる

そこで「アルデバラン」、「ブリアデスにつづくもの」という名前がつけられたんですね。

いくつかの一等星を紹介して参りましたが、冬の星空には、まだまだ一等星が見えています。

P カペラ

○ ぎょしゃ座

ここには「カペラ」という一等星があります。

この星も明るいので、街の中でも見つけ易いでしよう。

星座は「ぎょしゃ座」。

四頭立ての馬車を発明した王様が星座になっています。

P ボルックス
P カストル

さうこちらには、明るい星が二つ並んでいます。
でも、一等星はこちらの星だけ。
名前は「ボルックス」。

隣の星は二等星の「カストル」。

P カストル

「カストル」は、もとは一等星だったと言われています。
しかし、いつしか暗くなり、今では二等星として、光っています。

星座は「ふたご座」です。

○ ふたご座

P ボルックス
P カストル

一等星の「ボルックス」が弟の星。
二等星の「カストル」は兄の星にあたります。

双子なのに兄は人間、弟は神の子、という、ちょっと変わったコンビです。

しかし、二人が協力して戦えば、負けることがないという、無敵の戦士だったそうです。

(音楽 句切りよく終わる)

N
さて、沢山の一等星を紹介しましたが、まだ一つ、紹介していない一等星があります。

これから紹介する一等星は、本当の星空でも、なかなか見つけにくい星です。

あれつ、一等星は明るくて見つけやすいのに・・・、でも、見つけにくい？

そう、思うでしようが、ホント、見つけにくいんです。

では、紹介しましょう。

ここに見えています。

P
カノープス

M
音楽（台詞の中でF.I.してくる）

随分と地平線、ギリギリの所に見えています。

これから昇ってくるのかな？ と思って眺めていると、そのうち沈んでしまいます。

そう、この「カノープス」という一等星は、一番高く昇つてきても、だいたい今、見えている高さしか昇ってきません。ですから、南の地平線に建物や山があると、見ることができません。

そこで中国では、「南極老人星」といつて、「この星を見ることができたら、いいことがある」、という言い伝えがあります。

滅多に見ることが出来ないので、そのように言われているのでしょうか。

「カノーピス」は、船の星座の星です。
アルゴ号という、昔、ギリシャで一番早い船が星座になりました。

○ アルゴ座

そこで星座の名前も「アルゴ座」と呼ばれていましたが
あまりに大きな星座なので、今では四つつに分けられています。

風をうける帆の部分が「ほ座」。

船の後ろの部分が「とも座」。

船の底、お椀になつたところが「りゅうこつ座」。

そして、「ほ座」の隣に「らしんばん座」があります。

残念なことに、アルゴ号の姿は一部が南の地平線に隠れ
て、全体を見ることが出来ません。

全体を見るには、日本より、もつと南の方へ行かなくて
はなりません。

(音楽 句切りよく終わる)

M エンディングの音楽

それは、初めに見てきた、三つの一等星。

「シリウス」

P シリウス

P プロキオン

P ベテルギウス

「プロキオン」
「ベテルギウス」

○ 冬の大三角線

三つの星を結ぶと三角形が出来ました。

これを「冬の大三角」と、呼んでいます。

明るい星たちで作られたこの三角は、見つけやすいので
ぜひ、今度は本当の星空で見つけてみて下さい。

冬は何かと寒く、家の中にこもりがちですが、一年の中で一番、空気の澄みきった季節です。
星空もとても綺麗に見ることのできる季節。

天の川も頭の上から南の地平線へと、流れているのが見えるかもしれません。

ちょっと服を着込んで、暖かくして、冬の星空を見上げてみては、いかがでしょうか。